

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 8月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500721
法人名	有限会社天輝
事業所名	グループホームチューリップ
所在地	太田市只上町1319-1 (電 話) 0276-37-6526

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年7月28日

【情報提供票より】(20 年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 2人, 非常勤 8人	常勤換算 5.9人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 60,000	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	300 円	おやつ 円

(4)利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性 2 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 75 歳	最高 86 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	富士ヶ丘病院 ・ 長島歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りを緑に囲まれた広い敷地の静かな場所に移転し、半年ほどになる。建物の広い共有空間の中で、入居者はテーブルを囲んで、職員と談笑している。共有空間の南側の大きなガラス戸から、太田のシンボルの金山が手に取るように見ることができ、毎日外の景色、庭の緑を眺めながら日々暮らしている。「地域の中で家庭らしく、自分らしく」を理念に、職員は日々入居者の身体的、精神的な支援に努めている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の見直しをするなど、前回評価の課題に対して取り組みをしているものもあるが、ホームを移転することにより環境が変わり、すべての課題に対して取組みがされていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	月1回の業務会議で評価の意義について、話している。全職員に評価表を配り、意見を出して管理者が記載している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	移転後、1回開催している。会議では、日常の様子、火災対策、外部評価の説明等のホームの現況報告にとどまっておらず、双方向の話し合いに至っていない。参加メンバーに協力病院の参加もあり、入居者が多く参加しているが、地域の人々の参加はこれからの課題となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	入居者の担当職員を決めて、入居者、家族から信頼を得ている。家族の面会も多く、話をする機会が多いため、家族から気兼ねなく意見を言ってもらえるよう働きかけている。苦情等の相談窓口を説明している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	移転して半年のため、まだ地域との交流があまり行われていないが、毎日の散歩で近隣の人とのつきあいができ、ホームの家庭菜園を手伝ってくれたり、訪ねてくれるようになっている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で家庭らしく自分らしく過ごす」という、職員にも入居者等にもわかりやすい理念を掲げている。理念の見直しを行い、これまでの理念に「地域の中で」を加え、全職員で考え一致した理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げている。月1回の業務会議で、ケアに対しての問題解決や対応等を話し合い、理念に基づき「家庭だったらどういう支援をしていくだろうだろう、どう対応していくだろう」と考え、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在地に移転して半年のため、まだ地域との交流があまり行われていない。しかし、ホームの家庭菜園を近所の人が手伝ってくれたり、散歩時に挨拶を交わしている。	○	地域の人々との交流場面の機会を増やす、事業所からも地域行事に参加するなど、地域に溶け込んでいくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の業務会議で評価の意義について、話している。全職員に評価表を配り、意見を出しあい、管理者が記載している。理念の見直しをするなど、前回評価の課題に対して取り組みをしているものもあるが、ホームを移転することにより環境も変わり、すべての課題に対して取り組みがされていない。	○	改善課題に対し、目標、計画内容、期間等を検討し今後更なる取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	移転後、1回開催している。会議では、日常の様子、火災対策、外部評価の説明等のホームの現況報告にとどまっており、双方向の話し合いに至っていない。参加メンバーに協力病院の参加もあり、入居者が多く参加しているが、地域の人々の参加はこれからの課題となっている。	○	会議での話し合いの結果を活かした具体的な取り組みが行えるような双方向的な会議となるよう期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者が、元気おとしより課、介護サービス課に機会をつくり、情報提供や災害対策等の話をしている。市からホームの空き状況を尋ねてきたり、紹介の連絡もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回のチューリップ便りにより、入居者の暮らしぶりを報告している。また家族の面会時に入居者の健康状態、暮らしぶりを報告し、家族の意見・要望を聞いている。金銭管理は、小遣い帳にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も多く、話をする機会が多いため、家族から気兼ねなく意見を言ってもらえるよう働きかけている。苦情等の相談窓口を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ない離職や交替はある。離職の際は、ダメージをうけないよう入居者にとりたてて説明せず話さずに離職している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には参加しているが、研修計画は立てていない。また、業務会議の中で勉強会を行っている。	○	今後、計画的に全ての職員が研修に参加できるよう体制を整え、法人内研修の開催、法人外研修の参加の機会をつくることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入っており、交流は行っている。相互訪問を行っていたが、現在は行われていない。	○	相互訪問等研修会を通じて事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から入居する方が多く、入院中に病院へ面会に行き本人や家族と会い、希望や思いを聞き見学してもらうことから始めている。入居者を一人ずつに紹介し、馴染めるよう心がけ、言葉かけを多くして安心して生活できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	縫い糸の結び目の作り方、根までとる草むしりの仕方、じゃがいもの皮むき等を教えていただいている。日々の生活の中での会話を大切に、その生活のなかの時々場面での入居者のできることを新たに発見することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握には、会話が一番であると考えて会話を持つことに努めている。また、表情、単語のみの表現でも、その中にこもっている思いから検討し、気持ちを把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、日頃入居者と話している中で本人の希望や意向を聞きながら計画担当作成者に伝え、家族からは面会時に意見・要望を聞き、職員全員で意見交換をおこない、ケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なケアプランの見直しは、サービス担当者会議を開催し、モニタリング記録やケース記録に基づいて行なっている。また状態の変化に合わせて職員間で、必要に応じて、家族や主治医と話し合い変更している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活の中での食材の買出しに、入居者と一緒に出かけることもある。基本的に入居者の受診は家族の対応となっているが、必要に応じて受診の付き添いや送迎を行い、その後の報告もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や希望する病院を聞き対応している。協力病院をかかりつけ医に希望する入居者は、送迎バスもあり定期的受診が可能である。協力病院にない眼科や皮膚科等の受診は、家族や場合によりホームで送迎の対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重症化指針なるものを書面により説明し、同意を得ている。その後も、入院時のこと、他の介護サービスの利用等も含め話し合っている。かかりつけ医にも話をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が希望する呼び名で呼んでいる。居室には、声かけをしてから入室する等何をするにも声かけ、話しかけ、了解を得て、プライバシーに配慮した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はせず食事のゆっくりな人には見守ったり、食事時間を変更するなど入居者のペースに合わせた過ごし方を支援している。また、ソファに座っている人、居室にいる人、散歩に行く人、草むしりをする人等さまざまである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所は共有空間から見える位置にあり、見守りもでき、また入居者が食事の準備や片付けに参加しやすい配置となっている。テーブル拭き、じゃがいもの皮むき、片付け等ができる人は職員と一緒にしている。献立表は家族にも渡している。昼食は、職員と一緒に食事はしていないが周囲での見守りはおこなっている。朝食、夕食は、入居者と同じテーブルで一緒に食べている。	○	昼食も一緒に食事をしていただき、立ったままでなく同じ目線で話かけ、必要に応じて介助をしながら食べていただくことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、月、水、金の週3回である。失禁の場合にはシャワー浴、夏場外出後や汗をかきやすい入居者等には、臨機応変に対応している。また、入浴時間の希望も聞いている。季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯等を楽しんでいる。個別に職員が見守りや介助により、気持ちよく入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴をよく知りアセスメントにより、一人ひとりの力を活かして生活できるよう支援している。掃除を全入居者で分担して行ったり、ホームの家庭菜園の収穫や野菜、花、植木の水やり、裁縫、料理の下ごしらえの手伝い等、それぞれが役割をもって生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、午前と午後に散歩をしている。行きたい場所は本人からなかなか聞き取れないが、できるだけ戸外に出られるよう近所の公園や商店等への外出支援を行っている。また、月1回外食にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけていない。共有空間と玄関フロアーとの間の戸には鈴がついていて、出て行くのがわかるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災を想定しての避難訓練を行っている。機器の点検を行い、誘導係や連絡係等の役割分担、緊急連絡網等を決めている。地域の消防団へ協力要請に行き見取り図を確認してもらう等の取り組みをしている。地域の人々の協力はない。	○	日頃から地域の人々との連携を図りながら理解を求め、協力をしていただけるような働きかけを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をし、職員で共有している。毎食後、おやつ後、外出後、水分補給をしている。汗をかいているか等の状態を見ながら、水分摂取を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の南側のガラス戸が大きく、日差しが入り、田畑の先には金山が望める等季節感が感じられる。室内は白を基調とした内装で、ソファ・テレビ・観葉植物などが置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた品物の持ち込み等について説明している。家族の写真や好みのカレンダー、コップ、布団等を持ちこみ、家庭らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。		